

## 第14回総合計画策定審議会議事録

日時：平成27年3月13日午後1時30分

場所：伊予市生涯研修センター「さざなみ館」第1研修室

出席者：青野光委員、井川一郎委員、今井健三委員、大森幸子委員、奥村やよい委員、笹木篤委員、重松安晴委員、田頭孝志委員、武智英一委員、武智英明委員、橘慶子委員、玉井彰委員、西村道子委員、橋本千春委員、松本良太会長、山崎由紀子委員

欠席者：向井桂委員

事務局（坪内・小笠原・岡井・木曾）

傍聴者：1人

### 1 開会

### 2 議事

#### （1）総合計画策定スケジュールについて

#### （2）伊予市の将来像、基本構想の体系について

（事務局）

総合計画の策定スケジュールの確認を行う。これまでの審議会を簡単に振り返ると、平成26年1月10日に第1回目が開催されて以降、市長公約の検証、市の重要施策への提言、第1次総合計画の検証作業等を経て、11月28日の第10回目から基本構想、将来ビジョンの本格的な策定作業に入っている。また、審議会と並行して12月7日にはキックオフシンポジウム、2月23日には住民ヒアリング、同月24日には職員研修ワークショップ等を実施しており、次週住民ヒアリング及び第1回市民ワークショップを行う予定としている。本日第14回目の審議会にて、将来像と基本構想の体系について協議し、方向性を決定いただくということで、平成26年度の作業は一区切りを迎えることとなる。

資料1（今後の審議会の予定について）を説明する。次回第15回目の審議会では、本日の結果をまとめた基本構想の確認とワークショップ報告が主な内容となる。続いて第16回目から18回目（5月から7月）にかけて、各施策分野の検討を行う。委員の皆さまから提案のあったワークショップ形式を取り入れることとし、17人の委員さんを2班に分け2つの分野について同時に検討を行う予定としている。この作業と並行し、職員レベルで各施策分野の方向性に関する検討や文書の編成作業を行う。これまで頂いた委員の意見を反映させた上

で、基本計画書の素案を作成する。第19回目から第21回目（8月から10月）では、計画書案を示すことができると思うので、その計画書案について審議、確認いただく。おおむねまとまった11月以降に市民全般に対する意見公募手続（パブリックコメント）を実施し、12月または1月に市長への答申というスケジュールで考えている。これに並行して市民ワークショップや市民討議会を開催することとしており、市民の皆さまの意向を聴取、把握し、計画書に反映させる予定としている。

（業者）

引き続き伊予市の将来像及び基本構想の体系について説明する。資料の説明を行った後に、議論に移ることとする。資料に「次期伊予市総合計画将来像について」とあるものである。先般の皆さんの議論や、年末に行ったワールドカフェ「イヨ・カフェ」での皆さんのご意見でも将来像を検討いただいている。そういった議論、結果を踏まえて、今後10年間伊予市として目指すべきまちの姿、将来像を掲げていければと思う。また、先般委員の意見の中に、人口がどんどん減って、将来人口が3万人を切っていく可能性があり、食い止めていかなければならないということがあったので、それを踏まえ、副題の案を提示している。

将来像については、事務局側から5つの案を示している。簡単に説明する。

### 1. まち・むら輝く、ひと・しごと育てる伊予市

伊予市にはまちからむらまで多様なシーンがある中で、それらの地域性をうまく生かしていく必要がある。背丈にあった施策や取り組みが大事だという話もあったし、経済的な話もあった。その中で実際に人を呼び込む、新しい仕事の形を育てるということもあったので、ひと・しごとを育てるという言葉でまとめている。

### 2. 輝く「地域」「幸せ」育てる伊予市

基本は1.と同じ考え方である。まち・むらを大きく「地域」として表している。また市民の皆さんの満足度や幸せを変えていかないといけないという議論を少し含ませて、「幸せ」育てるという言葉でまとめている。

### 3. リスタートシティ I Y O

いろんな都市から若者たちを呼び込んでいかないといけないという中、それだけではなく、地域の中で高齢者の生活や元気な方々の力はしっかり使っていかなければならない、生かしていかなければならないという話もあった。新しい人生のスタートというところもあったので、リスタートシティという言葉でまとめている。

#### 4. みんなが快適い～よ伊予市

考え方としては1.及び2.と同じである。生活環境やコミュニティーの中で快適に過ごせる伊予市、そういったものを培っていきながら、さらに外に対してPRして呼び込むような、少し呼びかけ的な言葉としている。

#### 5. むら・まち・ひとが<sup>わ</sup>つながる環のまち伊予市

基本は同様の考え方であり、地域性やそこに住む人たちといろいろつながりを持つ中でまちづくりを進めていく。体系的な話があったとおり、そういうものが関連性を持ちながら、ぐるぐると環<sup>わ</sup>を描いていく感じとしている。

基本的には地域性が育つとか、ひと・しごとがしっかり育つ中で地域のいろんな人材や資源を生かしていくとか、前回方向性で議論いただいたものと同じような考え方で挙げている。副題は先ほども説明したとおり、将来的な人口を維持していかないといけないというご意見であり、将来像に入れてもいいのだが、さすがに10年間の計画なので、この10年間となると分かりにくい数字になってしまうので、2040年に3万人で食い止めるという基本的な内容で形を変えて3つの案としている。

このように事務局案を出してはいるものの、これで決まりという話ではなく、この案を見ていただきながら、この中のこれが良いよということであれば、それでも良いし、ここを変えた方が良いだろうとか、全く違う言葉を使ってこんな言い回しが良いんじゃないかという議論をいただいて、将来像を決めていければと思っている。

将来像を考えていく上で、後ほど説明する体系の部分でどういう見せ方をするかということもあり、その体系の中でどう連動した形を作っていくかということはあるのだが、まず将来像として、市民と一緒にまちづくりを進めていくためのキャッチフレーズ的な、今後10年間の目標を議論いただき、おおむねの方向性を固めたいと思う。

皆さんにはA3の紙に先ほど説明した5つの事務局案を載せている。この将来像が良いということであれば、その番号に丸を付けてもらう、もしくはこの言葉はこう変えた方がいいなということであれば、直接その部分を訂正して書き込みしていただいたので構わない。全く違うということであれば、下に大きく括弧を設けているので、こちらに将来像を書いていただければと思う。考えていただいた内容を前のホワイトボードに書き出して、どれが良いかという議論を進めたいと思う。10分程度の中で皆さんの知恵を絞っていただく作業をしていただければと思う。よろしくお願いします。

(事務局)

12月7日にキックオフシンポジウムを開いた際、皆さんに短冊に書いて発表してもらったものがある。その部分を抜粋して参考資料②として配布している。これも将来像の参考資料として見ていただきたい。

(委員)

伊予市のブランディング事業として、封筒に「ますます、いよし。」という言葉が書いてある。これがどういう経緯で決まったとか、どういう意味なのか説明があれば書きやすいと思う。

(事務局)

こちらのロゴマーク、キャッチコピーについては、我々の課が主に担当している。今までも市章はあり、伊予市の公式な文書には使っていたのだが、市政10周年を迎える中、より旧伊予市、旧中山、旧双海の一体的なまちづくりを進めようということで、それ以外の名刺とか冊子とかさまざまなことに使えるようなロゴマークを作ろうと。そして、ロゴマークだけでは伝わらない部分についてはキャッチコピーを作って、親しみを持てるようにしようと。そういうことで、市民40人ほどに集まりいただいて、9回のワークショップを行ってまとめた。この委員会からも2人の委員にワークショップに出ていただいている。その中で、マークはこのIYOとなり、キャッチコピーは何案かあった中で圧倒的に支持が多いものとなった。これは、弥し（いよし）という読み方で、いよいよますます、これからという意味がある。その「いよし」という響きを取って、今後伊予市はどんどん発展していくんだという意味を込めて、「ますます、いよし。」というキャッチコピーに決まった経緯がある。あと、今までのような結構長いコピーもあったのだが、「ますます、いよし。」と短くて使い勝手が良いということもあり、この言葉に決まった。

将来像として確にかぶるところもあるので、将来像に含めるのも一つの手かとも思う。これから伊予市がますます発展していきますよ、どんどんおおきくなっていきますよという意味を込めて「ますます、いよし。」という言葉にしているという紹介をさせていただいた。

(業者)

よろしいか。後ほど説明する体系のパターン1、2、3には、将来像案の1.2.3.を入れているのだが、これは仮に入れているだけである。パターン1に2.の将来像であったり、4.5.の将来像が入ってもよい。将来像が決まれば、その辺は調整を行うと思っていただければと思う。よろしくお願いします。

[30分程度作業及びホワイトボード書き出し]

(業者)

お待たせした。皆さんに出していただいたものを一通り書き出した。

●事務局提案の将来像

- |                                       |             |
|---------------------------------------|-------------|
| 1. まち・むら輝く、ひと・しごと育てる伊予市               | 3人          |
| 2. 輝く「地域」「幸せ」育てる伊予市                   |             |
| 3. リスタートシティ I Y O                     | 1人          |
| 4. みんなが快適い〜よ伊予市                       | 2人          |
| 5. むら・まち・ひとが <sup>わ</sup> つながる環のまち伊予市 | 2人 (伊予市は不要) |

●委員提案の将来像

- ①まち・むら・ひと・つながり輝くいい伊予市
- ②しっかり働き楽しく暮らす危機にはまとまる自立の都市伊予市
- ③しっかり働き楽しく暮らすますます伊予市
- ④元気な産業やさしい地域ますます伊予市
- ⑤伊豫の国愛媛の伊予市 I 重なる (あふれる) 伊予市
- ⑥輝くまちしあわせ育てるリスタートシティ I Y O
- ⑦ますます快適い〜よ伊予市
- ⑧輝く「地域」育てよ (人材) いきいき (笑顔) でいい伊予市
- ⑨おらが町みんなで育てよう子は宝
- ⑩輝く地域い〜よ伊予市
- ⑪みんなで変わってみんなでささえる伊予市
- ⑫みんなが住みたくなる伊予市
- ⑬ひと・まち互いに育てるい〜よ I Y O
- ⑭ひとの暮らしを楽しむいよし
- ⑮住むひとが共に育てるまち伊予市

●委員提案キーワード

- ・自立、独自、一人立ち、均衡
- ・人のつながり、互助、協働
- ・空間のつながり。空間の多様性と連帯性

事務局案に丸を付けていただいたものは人数を書いている。別にキーワードで書かれているものも書き出している。独自で書かれたものについては、せっかくなので、簡単に考え方を説明いただければと思う。

(委員)

①まち・むら・ひと・つながり輝くいい伊予市

1. をもじった感じである。まちとむらというキーワードは今までにないことなので、どうしてもあったら良いと思った。それから人がつながって輝いていく伊予市になれば良いなということで、この文章になった。あと、働きとか暮らすというのは、今後細かく分類して考えるところにはめると良いと思う。

(業者)

ありがとうございます。1.からしごとを抜いて、5.をまとめた感じである。

(委員)

②しっかり働き楽しく暮らす危機にはまとまる自立の都市伊予市

まず働くということと暮らすということの一つ柱におく。危機というのは南海トラフ地震である。人口減少も危機ではあるが、その危機をばねにまとまる自立都市というイメージである。伊予市に危機感がないとよく言われる。南予辺りでは、危機感をばねに行政、住民がまとまる要素があるけれど、伊予市はそこそこ行ける部分があるため、その弱点を出したかった。

③しっかり働き楽しく暮らすますます伊予市

④元気な産業やさしい地域ますます伊予市

これは「ますます、いよし。」をどう使うかということである。私もその会に入っていた関係で、せっかくのキャッチフレーズを生かす手はないかなと思った。しっかり働く、楽しく暮らすという個人（住民）目線。あるいは客観的に見て産業が元気で、地域コミュニティは人がやさしいという形でまとめる方法があるかなということで、提案させていただいた。

(委員)

⑤伊豫の国愛媛の伊予市I重なる（あふれる）伊予市

伊豫の国、愛媛の伊予市と、どちらもIがある。重なる（あふれる）はどちらにしても良いと思って書いた。私はほかのグループでIネットというグループを作っているくらいなので、Iというのを強調したかった。

(委員)

⑥輝くまちしあわせ育てるリスタートシティIYO

これは単純に2.と3.を組み合わせたものであり、地域（ローカル）をまちに、漢字だった幸せをひらがなにただけである。

(委員)

⑦ますます快適い〜よ伊予市

語呂合わせのようにして、できるだけネーミングは短くした。先ほど「ますます、いよし。」のできる過程を聞いて、現状のゼロスタートからよくなりますと。伊予市は中山から双海から伊予からいろいろあるものだから、全体を指す意味でますます（＝全域）を入れる。快適というのは、全体として現状より発展しますという意味。私は4.に丸を付けた上で、プラスアルファ提案させていただいている。

(業者)

シティブランドの話にあったロゴを入れていただいているようである。

(委員)

⑧輝く「地域」育てよ（人材）いきいき（笑顔）でいい伊予市

地域が輝いてそして人材が育っていく。これで笑顔の地域が良い伊予市になるのではないかという視点で書いた。

⑨おらが町みんなで育てよう子は宝

自分たちのまち、みんなで育てて、子を育てる。子どもが出っぱなしになるのではなく、地域に帰ってくることも含めて書かせていただいた。

(委員)

⑩輝く地域い〜よ伊予市

地域をローカルというのもどうかと思ったのだが、地域が輝くことによって、ますますは入っていないのだが、良い伊予市に発展するのではないかという思いを書いた。

(業者)

ありがとうございます。ローカルという言葉はちょっと言いにくいかもしれない。地域という言い方が良いということだろう。

(委員)

⑪みんなで変わってみんなでささえる伊予市

ただの伊予市ではいけないのだが。どうやっても、最終的には人がやらないといけない。ずっと言っているように、職員も市民もみんなが変わって支えていかなければ、これからの伊予市はどうにもならないのではないか。やはり人が変わっていく教育をしていかないといけないというのが一番である。

(委員)

⑫みんなが住みたくなる伊予市

いろいろ考えていたら短く納まった。私は松山から引越しして、不自由することはなかったのだが、最近一つある。子どもを幼稚園に入れており、嫁は仕事、私は家の仕事で迎えに行くことができていた。最近私が外に出る機会が増えて、保育園を考えないといけないと入園手続きはしたのだが、50人近く待機児童がいるということで困っているのが正直なところである。私は営業なのでまだ調整はできるのだが、勤めている方もいる。子どもを増やして人口を増やさないといけないと言っている中、そこができていないのは大問題じゃないか。私も困っていて、地域外に入れないといけないかなと嫁と相談している。子育てする側の意見として、初めて住みにくいところが出てきたので、住みた

くなる伊予市、思い通りになるといいかなと思ってこういうことにした。

(業者)

ありがとうございます。外からの目線でやっぱり住みたくなるといふ、住むというキーワード、ほかのところと同じ形かなと思う。

(委員)

⑬ひと・まち互いに育てるい〜よ I Y O

⑭ひとの暮らしを楽しむいよし

⑮住むひとが共に育てるまち伊予市

最後は I Y O や伊予市としてみた。前回「育てる」という言葉を入れたらいいという意見があり、今回の案でもひと・しごと育てるとか、幸せ育てるとかあった。それから、短いほど良い。「ますます、いよし。」を決めるとき、私は短い方が良いといった覚えがあり、今回も短く、できれば韻を踏んでということ考えていた。イメージとしては漠然としているので、逆に誰でも分かる住民主体、住民自治が盛り込まれている感があるのが良いかなと考えてみた。

(委員)

- ・ 自立、独自、一人立ち、均衡
- ・ 人のつながり、互助、協働
- ・ 空間のつながり。空間の多様性と連帯性

私は自分の頭の中で、この3つくらい打ち出せたら良いなと思った。まずは、経済の循環を起し、自分のところだけでもやっていけるようにする。特徴のない伊予市ではあるけれど、ほかのまちとは違うと気張って独自性を出したい。2番目にたくさん言葉は出ているけれど、人のつながりや互助、協働。協働ならコラボレーションとか。人が減ると余計につながって力を合わせなければ難しい。3つ目に空間のつながり。まちとかむらとか、空間の多様性があるって、それらが連帯感を持って共存することを表せる言葉があればいいかなと。この3つが出てくれば最高だなと思いながら表現はできなかった。

もう一つ、総合計画からどう行動するかという、行動目標が大事だと思う。伊予市が素晴らしいという形容するだけでは面白くない。行動が裏付けされているような目標像、そういう言葉になってほしいと思う。

(業者)

ありがとうございます。皆さんの説明や出ているものを見ていくと、育てるだとか、ブランドのキャッチフレーズにあるますますという、今から育っていく、ゼロから積み上げていくという能動的なキーワードが出ている。仕事の話もあるにはあるのだが、どちらかと言えば暮らし、生活の部分で住みやすくな



る選択を推していると思った。少し柔らかい言葉でぼやっと出して、皆さんのイメージを掻き立てるという方法もあるだろうし、もう少し具体的にやっていくことで、住みたくなるとか、住みやすい快適な都市というイメージを出すところもあるかと思う。皆さんの意見を全部まとめて一本に集約するのは難しいのだが、今の説明を通して、この言葉は入りたいとか、出たもの以外に何かあれば、挙手の上発言いただきたいと思います。また、自分の提案のほかに、こういうのが良かった、共感できたという意見があれば言っていただきたい。

(委員)

⑨おらが町みんなで育てよう子は宝、が最高だと思う。今日帰っても覚えているし、言えると思う。すごく良いと思う。

(委員)

⑪みんなで変わってみんなでささえる伊予市、が一番気に入った。「変わって」というのが独自性、今のままではいけないと行動が見えてくる。それから「ささえる」というのが、人のつながりや空間の連帯性みたいな言葉で良いなと思う。それから⑬ひと・まち互いに育てるい〜よ I Y O、も単純で良いなとは思ったのだが、独自性の部分がちょっと。独自性の部分が出ているのは、②しっかり働き楽しく暮らす危機にはまとまる自立の都市伊予市である。⑧輝く「地域」育てよ（人材）いきいき（笑顔）でいい伊予市、⑨おらが町みんなで育てよう子は宝、はアジがあるなと思う。

(委員)

⑨おらが町みんなで育てよう子は宝、は非常にインパクトがあってイメージは良い。ただ気になるのは、公言するときにインパクトのあるネーミングにするのか、それとも背景を考えた上で10年先を見越した着地にするのか迷っている。インパクトがある方向にすべきかなというイメージはしているのだが、一方で伊予市は住みやすい所だというキャッチフレーズを出さないといけないとも思う。奇抜なものか、ちゃんと見据えた上での表現か、その辺まとめてもらうとありがたい。

(業者)

奇抜じゃないといけないとか、共同的に一緒の方向にできるものじゃないといけないというわけではない。考え方だけだと思う。例えば先ほど紹介いただいた「ますます、いよし。」は、ブランドを都市として売り出していこうというところでインパクトを与えて、イメージを膨らませている。今回は総合計画なので、イメージということでインパクトを出すのも良いのだが、やはり市民の皆さんがこういうまちを作っていきたいというのを掲げるのが前提だと

思う。それを表現の仕方インパクトを出すか、分かりやすい言葉ではっきり出すかということだと思う。その辺を少しご議論いただいてまとめていただくのが一番だと思う。どうだろうか。

(委員)

尖りながらもやさしくという感じだろう。

(業者)

その両立はなかなか難しい。皆さんの中で支持が多い、おらが町みんなで育てよう子は宝、という形で出すのも一つだし、住みやすい快適なところとして良い所ですよとアピールする形もある。皆さんの言葉を紡いでどうするかという話である。

(委員)

皆さんのどれを見ても、最終的には子どもからお年寄りまで人が主人公である。最終的にその人ら全部が幸せを感じたら良いわけである。子は宝と言うけれど、人も宝である。そこへ持ってくる文章があれば良い。

(業者)

キーワードとしては、人と住みやすさ、幸せというところだな。同じような形でこの辺が少し大事かなというキーワードはないだろうか。

(委員)

こういうものを作る際、どこのまちに持っていってもばつと合うのではなく、伊予市にあるものを入れて伊予市の良さを開発するテーマになれば一番良いと思う。川柳的に言うわけではないが、「子育て定住、伊予市は最高！」それから伊予市は伊予病院に始まり、割合医療施設がある。そういうことで「医療・福祉にベストな環境」として、絶景のあるところに施設を増やして行って、雇用も増えていくのがいいのではないかと思います。

(業者)

ありがとうございます。言葉を全部入れて長いキャッチフレーズを出す場合もあるのだが、どうだろうか。先ほど短く分かりやすい方が良いという意見も多かったと思う。それらを踏まえ、要素はあった方が良いのだが、どれが良いかももう少し絞っていただきたい。あと特にこの言葉は大事だという意見はあるだろうか。人、住みやすさ、育つ、変わるなどの言葉は大事だというお話であった。

(委員)

市民の方にあれしましょう、これしましょうと言っても、市民の方が変わらないと結局意味がない。そういう意味で自立とか変わるというキーワードは大

事かなと思う。こうしたら、自分が幸せにこの地域で暮らせると思うようになれば、特に行政が何かをしなくても自動的にどんどん変わってくると思う。そういう環境づくりがすごく大事であり、そういう意味で変わるというのはすごく推したい言葉である。

(業者)

ありがとうございます。変わると自立…キーワードを連ねて言葉にするという手もあるのだがどうか。全てのフレーズをつなげるのは難しい気がする。皆さんからいろいろ案を出していただいております、どれかに絞るという形で投票というやり方もあるにはある。それから皆さんから出てきた大事なキーワードを取り上げて、最終的にこちらで案を作るやり方もある。どちらの方で考えていけばよいか。

(委員)

今キーワードが出たのだから、それを使って事務局が作り、その中から皆さん選ぶのがいいのではないかな。

(業者)

分かった。それでは、今日こちらにいろいろ出していただいたものを踏まえて、事務局側で整理する。先に世話人会でお話をしてから、皆さんに確認してもらう形が良いかと思う。よろしいか。

では、一つ目の議案については、これでまとめさせていただく。

〔10分間休憩〕

(業者)

今議論いただいた将来像と連動している総合計画の体系について説明する。

まずは資料④、体系のパターンについて。前回の検討会の中では3万人で食い止めるというご意見があった。ここでは国の研究機関である国立社会保障人口問題研究所が推計している実際の将来人口を掲載している。10年後の2025年においては、32,716人と予測されており、その後さらに減っていく想定である。そういう中、3万人を維持する、そのために危機感を持って取り組んでいく方が良いということで副題に盛り込んでいるのだが、それに対応した内容を盛り込めればなと考えている。

次に体系の説明に入る。ここでは3案の体系を提案している。

#### パターン1

将来像を「まち・むら輝く、ひと・しごと育てる伊予市」と想定している。前回の審議会でもまち・むらという考え方があり、合わせてひと・しごとを育てていきたいと思いますというご意見が出ていたので、その部分を反映して

いる。その上でまちやむらといった地域にあったまちづくりをしっかりと進めていきますと宣言した上で、今から未来へ向けて計画を組んでいくという体系になっている。

まち・むらについては、皆さんそれぞれ考え方があってと思う。ここでは市街地＝まち、農村集落＝むらという一般的な考え方ではなく、コミュニティとしての最小単位の集落をむらと考え、それが集まり大きなまとまりになったものをまちと考えている。生活面において、郡中であっても、中山・双海であっても、そういうコミュニティ単位での関わりはあると思う。そういうむら（＝コミュニティの範囲）であったりまち（＝大きなくくり）であったりという認識の下、まちづくりを考えていきたい。

それを受けて、次に未来戦略①から③としている。「3万人が働ける、儲かる産業」、「3万人が住み続けられる環境をつくりまします」、「3万人の力を結集できる意識改革を行います」という戦略を3つ掲げて、先ほど説明したまちとむらの部分で、実際に取り組んでいく施策やプロジェクトを分けてまとめている。①産業に関しては、まちなか応援プロジェクト、中心市街地という本当のまち中だけでなく、伊予・中山・双海などいろんな地域に中心となるエリアがあるので、その部分で連携しながら取り組む部分に力を入れてはどうか。次にあじの郷（くに）プロジェクト、歴史観光とか地域ブランド化、また起業、創業など若い世代の方々が働いていけるものを示すようなプロジェクト、そういったものを産業に組み込んでいけばどうかという案を出している。②住み続けられる環境として、支えあい～よプロジェクトとして、健康部分にもう少し力を入れてみてはどうかとか、I J U（いじゅ～）支援プロジェクトとして、IターンJターンUターンの方をもう少し支援していく案がある。③意識改革としては、地産地消プロジェクトを例に入れている。

その下今、未来と書いているのだが、これは事業や施策のレベルで変わってくる。どういうプロジェクトを進めていくかちゃんと見える化をすることによって、いつの時期にやっていくかを示している。

これらを受けて、基本計画の内容を組んでいくこととなる。

## パターン2

前回示して、割とオーソドックスな内容と言われたものの内容を少し変えている。将来像は「輝く「地域」「幸せ」育てる伊予市」を掲げ、前回頂いた意見である幸せを感じられるまちにすればいいねという内容を含んで書いている。その中で3つの重点分野、人材育成・経済環境・生活環境を軸に、

基本目標となる5つの柱を組んでいる。まち・むらは施策単位、事業単位でそれぞれのエリア、地域にあった部分で取り組むことになる。

割とオーソドックスな形なので、何か見たことがあるなというのものもあるかもしれないけれど、重点分野を組んだ上で、それに対する基本目標を立てて、それぞれまち・むら単位で事業を組んでいく内容となっている。

### パターン3

将来像を「リスタートシティ IYO」としている。これはちょっと尖っているというか変わったものであり、人口減少社会の中で、若い人を連れて来ないといけないという考えもあるのだが、元気なお年寄りの方は定年・退職を迎えられても、いろんな所で知恵を出して汗を流しているんな取り組みをされている。そういう方々を伊予市に呼び込んできて、終の棲家としていただきながら、いろんな取り組みをしていただけるような仕掛けをつくる。この10年間でどういうプロジェクトや施策を含んでいるかを考えた体系となっている。下段に5つのプロジェクトの例を挙げており、元気なお年寄りや定年を迎えられる方々を対象にして、第2の人生をぜひ伊予で、と言いながらシニアの世界でリスタートしていけるような人材を呼び込む。そしてその呼び込みに合わせて、地域の若者と連携して取り組んでいくことも考えられる。こういう形の体系も考えられる。

あくまで案ではあるのだが、この3つのパターンを軸に検討していくこととさせていただいている。将来像を実現していくために、どういう施策、プロジェクトを見せていくかという体系であるのだが、考え方としては、それぞれの良いところとか、パターン1とパターン3をくっつけるという話もあろうかと思う。この体系の見せ方について、皆さんにご議論いただければと思う。

パターン1にしる3にしる、基本的な未来戦略だとか具体的な将来像を実現するプロジェクトというのが前面に出てくる。それに対し基本計画という部分は、市のそれぞれの部局に合わせた形で施策や事業を推し進めている。この分野は載せているけれど、この分野は載せてないというわけにはいかないので、市全体でやるべきところは、この基本計画に織り込ませていただき、その中で特に特化したところを戦略という幅広いプロジェクトにさせていただくとか、具体的なプロジェクトという大きな枠組みの中でまとめ、皆さんに分かるような形で出していくことになろうかと思う。

今の説明で、この辺りがよく分からないだとか、この辺もう少し説明してもらった方が良いなといったご意見、ご質問があれば、ご発言いただければと思

う。

(委員)

主婦的な考え方と言うと、一番分かりやすいのはパターン3である。パターン2は私には無理そうだった。パターン3とパターン1がもう少し何か結び付いた案があればいいなあという感じがした。

(業者)

例えばパターン3とパターン1のどことどこが良いというのはあるか。

(委員)

パターン2は以前のもので類似しており、分かりにくい、無理だなと思った。パターン3は分かりやすいけれど、具体的に考えていく上ではパターン1の方が考えやすいのかなと。どれがどうというわけではなく、全体的にそう思った。具体的な案があるというわけではない。

(業者)

パターン3の明確な将来像なり方向性なりが分かる形で、パターン1を細分化して、分かりやすくなっているものを加えるという感じだろうか。ありがとうございます。

今の意見のように、ここはこういうことがいいとか、パターン1がいい、パターン3がいいという発言でも構わない。ここの表現が分からないということでも構わない。よろしくお願いします。

(委員)

一番単純なのは3である。パターン2が一番オーソドックスなやり方ではあるけれど、文章だけ作るのではないという意味では、このパターン2には実施する事業という形があるので、アイデアを入れやすいのではないか。1も良いとは思うのだが、これはいわゆる方向性だけの問題である。その違いから、私は2がいいのではないかと思った。

(業者)

ありがとうございます。言われるように1と3の表現の仕方と2のところがやはりちょっと違うと思う。

パターン1にしろ、パターン3にしろ、基本計画ということで下段に大ざっぱに分野をまとめている。表へ出る部分というのが、その上の基本構想で表現している。ただその基本構想を下支えするという感じで、細かい施策や事業については、簡単に書いてはいるものの、基本計画と書いてある下のところで行政側が整理していくというご理解をいただきたい。それがパターン2であれば、基本構想と基本計画が連動する形で表せている。これが従来型という形に

なるけれど、そういう表現ということでご理解いただければと思う。

(委員)

「リスタートシティ」はなじみのない言葉である。今聞いたので何となく分かったのだけど、なんか分かりづらいかなと思う。

(業者)

リスタートシティについては、先ほど将来像を皆さんにご議論いただいた。パターン3に決めたから、この将来像になるという話ではない。ここの考え方は先ほど説明したとおり、市の将来像を掲げる中で、何をテーマにしていくか。一つの切り口として高齢者の方々が元気に生きていく社会を作っていきましょう。そこでそれぞれのプロジェクトを設定していきましょうということで出した内容である。将来像自体は先ほどいろいろ出していただいたキーワードをもとに整理したものがここに書き込まれるという形になると思う。

(委員)

リスタートという言葉を日本語に変換したらどうなるのかという質問である。

(業者)

日本語に変換すると「再出発」ということになるかと思う。最近よく使われるリ〇〇という形で、新しいものを作るとか、あるものを壊して次の新しいものを生んでいくとか。

(委員)

リユースとかリサイクルとか。

(業者)

今言われたように、リユースとかリサイクルとかいう形で再生的な言葉が使われている。これを日本語にするとしっくりくるかどうかはあるけれど、どうだろう。創造という話で言うとは分かりにくいかもしれない。

(委員)

パターン2を見ると、冊子にした場合きちんとまとまる。つまり教科書的な、それこそ従来型だろうと思う。パターン1が一番いいと思うのは、短期と長期というメリハリ、今すぐにやらないといけないこと、将来やること、そこが一番気に入っている。せつかく我々が集まり、長い時間を費やしてディスカッションしているのだから、それなりの意見、反映が残るのは良いことだと思う。パターン3はあまりにも漠然とし過ぎているので、今回は1と2で検討した方がいいと思う。

(業者)

ありがとうございます。従来型かパターン1。パターン1が皆さんの意見をまとめたものに近いという意見かと思う。

(委員)

よろしいか。基本的には、基本計画で10年先をちゃんと道付けるのだけど、一番大事なのは、市民の皆さんが計画書を見て、この計画書が何を訴えているのか理解しやすい、分かりやすいということ。その視点から見るとパターン1が一番良い気がする。事務局サイドに立ってもまとめやすく、書きやすい。

ただ一点、人を育てる（＝育成する）という意味の文を、この基本計画のどこに入ればよいか。先ほどから審議会にも出ているように、人材育成が最終的なものであるので、そこをどう表現できるかなと疑問に思いながら、パターン1を想定した。過去の基本計画も見せてもらっているのだが、やはり1が一番良い、共有しやすい感じである。

(業者)

ありがとうございます。今意見のあった人材育成については、ここではパターン1の未来戦略③、い～よ人プロジェクトの内容に近いと思う。書き方としては、歴史的な話だとか、国際感覚といった視野も併せて改革していく。これ以外のものについても、今後盛り込んでいくこともあると思う。

(委員)

基本計画としてはパターン1が見やすいなと思っていた。聞きたいことがある。そのパターン1の基本構想の今、未来というところで、青と緑の線がある。この位置とか考え方が分からないので、教えていただきたい。

(業者)

先ほどの説明の際に言ってなかった、申し訳ない。これは先ほど定義のところでまちからむらというところ、むらが集落の単位、それが広がってまちという概念を話した。それでむら単位でやるもの、まち単位でやるものというのは、整理していくと取り組む事業が変わって出てくるのではないかと思う。それを色で分け、むらは緑、まちは青で表現した。それぞれの単位での事業レベルで直近にやるもの、ある程度下地ができてからやるもの、全体を通して引き続きやるものなど出てくると思うので、今から未来の中で段階を追いながら、それぞれの事業のイメージを表現するようになった。今はイメージという形でお示ししている。

(委員)

行政の方々が実施設計を作る上で、どういう上位計画（＝基本構想）が必要かというパターン1と2がふさわしいと思う。ただパターン3がどうも引っ



掛かる。パターン3をちょっといじると面白い体系になるかなとも思う。パターン2は普通の構成だし、パターン1はそれをちょっと変えたものである。パターン3は捨て案にも見えるし、作り方に一番力を入れてないとは思うのだが、ちょっと考えればもう少し面白そうなことができそうな期待がある。もう少しパターン3を説明してもらえないか。

(業者)

パターン3は、手を抜いているというわけではない。将来像の言葉は先ほど議論にもあったのだが、考え方としては、まちづくりの一つのテーマとして、それをプロジェクトとして大きくまとめていくやり方である。皆さんの議論の中でも、人を呼び込むとか若者を出さないようにしよう、若者に帰ってきてもらうという話の中で、高齢者のことも考えないといけないというところがあり、切り離すのではなく、全部つながっていくという話も意見としてあった。高齢者は現状として皆さん住まれているし、そこに呼び込むというのも一つのテーマとしてある。そこをクローズアップして、それにまつわるプロジェクトをまとめている次第である。

またパターン1でもプロジェクトという言葉を使っているのだが、これは枠組みが違う認識で書いている。パターン1のプロジェクトは、目的をある程度絞り、その中身が具体的な事業という形で上がってくるという意味合いがあるのだが、パターン3のプロジェクトはもっと大きいところ、パターン1でいう未来戦略という部分の意味合いである。そういう大きな枠組みとしてのプロジェクトを出しており、これに基づくいろいろな取組事例が出て、事業的なものがぶら下がっていくという構成になると思う。その辺があまり見えすぎるとパターン2に近づいて見える話になってもいけないので、全体の枠組みだけを出している。

したがって、今言われるように、もう少し手をかけて細分化すると違って見えると思う。またパターン1にプロジェクトをさらにぶら下げていく方法もある。

(委員)

パターン1と2は、どこの市町村もやっている計画書に近い構成だろうと思う。伊予市が独自性を出そうと思うとパターン3になるのではないかと思い、私は3を推したのだが、内容がよく分からないので消極的な賛成である。

(委員)

世話人会でも話をしたのだが、パターン2は見るからに今までどおりである。街角の普通のおばちゃんが見ると目をそらしてしまう、読まないと思う。

縦割り行政がそのまま前面に押し出されている形である。パターン１とパターン３の根本は同じだと思う。３本柱か５本柱かであり、パターン１はジャンルで分けて、そこにプロジェクトが散りばめられている。パターン３は代表的なプロジェクトを集中的にやろうという形でいきなりプロジェクトが並んでいる。大きな違いはそこだと思う。

私もパターン３が、どちらかと言えば内子町とか海士町に近いイメージであり、あまり総合計画に興味がない人にも読み物としてぱっと入りやすいかな、入口としてはすごく良いなと思う。

パターン１のまち・むらと言うと、ちょっと誤解を受けやすい言葉ではあるが、集落の最小単位と、都市的な郡中のいろんな空間のバリエーション、全体が同居すれば共存するという方向をかなり上の段階で見せれば良いなという希望を出したのだが、ここは３つのジャンルで上段にまち・むらと呼ばれる空間軸で分離する、その下に今と未来という時間軸で分離する。そういう立体的な座標をうまく表現している。そういう意味では、立体的な捉え方ができ、見せ方として面白いなと思う。パターン３のプロジェクト５つを前面に見せて、次の段にまち・むらとか今・未来という横断面で切ったような空間軸、時間軸を置いて、その下に基本計画を結びつけるという、パターン１とパターン３の融合型もありかなと思う。

パターン３で気になるのは、プロジェクトとはなっているものの、具体性がない。この下のまちなか応援プロジェクトやＩＪＵ（いじゅ〜）支援プロジェクトという具体性のあるプロジェクトをまた書かないと、プロジェクトだけではピンとこない。それから３つ目から５つ目までは全部人のつながりに関わるものであり、これら３つの違いがよく分からない。これらのプロジェクトを一新するのか、ジャンルで一新するのか、その辺はこれからじっくり議論していけばいい。そんな理念でパターン３とパターン１をうまく使って、概念（コンセプト）が下の基本計画に落ちるようにしていけば大体できるかなというイメージを持った。

（業者）

ありがとうございます。今、折衷案を出していただいたのだけれどどうか。言われたように、分かりやすさという点で何かを重点的に出す方法はある。その良さをもっと具体化していく必要があるという意見かと思う。パターン１の肯定的なものをパターン３に切り込むという意見はあると思う。

（委員）

再度申し訳ない。先ほどと同じ繰り返しにはなるのだが、これは計画である

から、原点は皆さんが見やすい、理解しやすい、それを見れば行政が何をしているのか、どう変わるのか分かる。それが評価につながっていくのだから、その視点で考えると、パターン1とパターン3を砕いたものにすればするほど見やすくなるし、評価もしやすくなる。ただその接点をどこに置くかを考えたとき、これから出てくる対策手段を事業化したものが横並びに出てこない、重なってこない。ストレートに見ると、素人目にはパターン1が見やすい、理解しやすい感じである。このパターン1の今と未来と書いているところ、ここに事業や対策というものがもう少し細かなもので入るか、その到達目標がそこに乗らないかなと想像していた。大事なものは到達目標であり着地である。そういうものが事業化と連動させて表現できる何かがほしい。少し中身が砕かれて分かりやすいと思う。ただその処理をすると、今度住民の方にそこまで理解してもらえるかどうかである。

原点はあくまでも計画が順々にフラットで見やすい、分かりやすい、整理整頓がぴしっと縦横合っている、到達目標がある程度見えるというもの。なかなか難しい。そういうものがパターン1の中に、今言われたパターン3に入れるところがあれば入れる、そんな感じである。基本はパターン1をベースにしないと、整理が難しくなるのではないか。その辺すっきりと表現してもらえばありがたい。

(業者)

良いところ取りという話もあったのだが、今のようすっきり見やすいところという…

(委員)

目線をどこに置くかだろう。

(業者)

なるほど。今の話にもあった目標をどう掲げるかというところもあると思う。数値目標を掲げてその数値をクリアできるかどうかというやり方もあるだろうし、数値ではなく、実現したらこういう地域、社会になりますよと文章的に表現するやり方もあると思う。どちらの表現にするかはまた議論になろうかと思うのだが、今言われた目標という生かし方はここでまた考えていかなければいけない点かなと思う。先ほど折衷案でまとまるかと思ったのだが、今の話もあったので、どちらで行くのかということにもなるのだが。

(委員)

どちらでもよい。どちらかでないといけないということはない。事務局の方で考えていただきたい。

(業者)

皆さんの意見ではパターン1か3のどちらか、もしくは混ぜた形でいくのかというところだと思う。できれば本日まとめたいのだが、いかがだろうか。あまり言いたくはないのだけど挙手で決めさせてもらおうという方法もある。どうだろう。

(委員)

パターン1の将来像が明確に書かれていて、戦略の1から3に目標的な言葉がずらっと入れば、何となくこういうところを目指しているんだというのが分かりやすくなると思う。したがってパターン1を基本として、パターン3の5つのプロジェクトを次に入れば、まちからむら、今から未来とつながり、分かりやすい気がする。

(業者)

ありがとうございます。パターン1にパターン3のエッセンスを少し入れるというご意見だと思う。

(委員)

私も基本は1が良い。3万人働けるとか儲かる産業を作るとか、いわゆる目標を3つほど掲げられている。そこに事業効果というか、事業を1つ2つ入れればいいのではないかと思います。この1の表にどういう事業があるかというのを取り込めば1が良いと感じる。

(業者)

事業の反映は、プロジェクトのところにこういう事業とその課題、こういうプロジェクトをやっていくという細かいことが出てくると思う。そういう感じでよろしいか。

まだこの件で発言されていない方がおられたら、発言いただきたい。

(委員)

プロジェクトのところに、PDCAサイクル、計画→実行→評価→改善という流れを入れるとすごく分かりやすくなるのではないかと思います。プロジェクトを視覚的に分かりやすく入れ込んで、それがぐるぐる回る感じである。

(業者)

今言われたPDCA、プランニングして評価する。それを反映してプランを立て直すというニュアンスだと思う。それぞれプロジェクトごとに入れるイメージだろうか。

(委員)

そんなイメージである。具体的に分かりやすくという考え方である。評価は

見えないのだが、計画から実行までを3つ4つ。

(委員)

それは毎月とか毎年とか変わっていくのか。

(委員)

いや、プロジェクトがあつて計画を立てる。その時に指標があるだろう。それを事前に分かりやすくすれば良いと思う。

(委員)

しかし実行や評価は後で分かることである。毎年変われば面白いと思う。

(事務局)

よろしいか。今回出しているものは、基本構想と基本計画の概略を1枚で表しているものであるが、総合計画はこれが50枚、100枚と分かれてくる。これは概念図であり、この後基本計画それぞれの柱ごとに事業は付いてくる。市としても今どきの計画であるので、例えばこのプロジェクトなら5年後にどういう目標を立てて、実際の達成度はどうだったかということを掲げないといけないと思っている。今の意見を反映した形で進めたい。この総合計画は10年計画であるのだが、5年後にはローリング（＝見直し）をかけないといけない。例えば5年後の短期目標、I J Uプロジェクトであれば100人の方を呼び込みますという目標を立てて、達成度が8割あれば、次にこういう事業を追加するなど考えられる。総合計画に見やすい手法を取り入れて、市民に納得してもらえ事業を組み込めればと思う。今の意見を参考にして、今後の計画作りに反映させていきたいと思う。

(委員)

平成18年から26年までは第1次総合計画があり、その検証を皆さんで見たのだが、我々の頭の中には残っていない。私は実施率とかそういうことではないと思う。また、都市基盤から始まり行財政までという項目は、表現が違っても内容はあまり変わらないと思う。そうすると伊予市が10年経った、これからどうするんだというのは、ガラッと転換することにはならないと思う。

今度の第2次は、第1次が市民に分かっていただいたかということも十分検証しないといけない。そうすると、やはり分かりやすい表現、言葉、それから5年が当初の目的としても、どうしたら10年間で実施できるのか。そういうことも表現の仕方として順位付けていかなければいけないと思う。お役所言葉で角があるような言葉ばかり書くと、同じ表現でもやっぱり違う。そこを十分やっていないといけない。それはずっと後の時期にはなると思うのだけど。今のパターンなら、私はパターン1でもパターン3でもどっちでも良いと思って

いる。市としての訴え方だけだと思う。

(業者)

ありがとうございます。今言われた表現の仕方とか言葉の出し方については、例えば市が基本計画の個別の施策を詰めていくと言葉の表現が出てくる。そこで違う表現にするとか、さらに分かりやすくブラッシュアップする形もあるかと思う。そこはまたここで皆さまにご議論いただく形になると思う。

(委員)

今、最初の計画を持っている。ここに将来図として27年人口の数値が出ている。平成7年から27年とあり、これでいくと総人口は37,450人となっている。この実際の数値がどうなっているか。その辺の数字が欲しい。

(業者)

27年というか、26年度末の話になるとは思うのだが、後ほど市から提示されるということである。

いろいろご意見を頂いたのだが、そろそろまとめさせていただきたい。皆さんの意見で言うと、パターン1かパターン3のバリエーション化したものと感じられるのだが、どうだろうか。

(委員)

私は先ほど勘違いしていてパターン2と言ったのだが、よく考えると、パターン1も下にプロジェクトを盛り込むと入っている。細分化したプロジェクトが入るのなら、都市整備にしても住環境にしても、パターン1が一番収めやすいのではないか。パターン3もいいのだが、1が一番分かりやすい。プロジェクトが下に入れば十分対応できると思う。

(業者)

皆さんうなずかれている方が多い感じである。どうだろうか。パターン1を少しブラッシュアップしてもう少し詰めていけば、今言われた事業とかプロジェクトがしっかり見えてくる形になるかと思う。こちらで少し方向性をまとめさせていただくのでよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(業者)

ありがとうございます。それではパターン3の分かりやすさも言われていたので、プロジェクトの表現の仕方や出し方に分かりやすさを留意して整理したい。

先ほど将来像についてのキーワードなり表現の仕方なりのご意見を頂いた。また体系については、パターン1を少しブラッシュアップするという意見を頂

いたので、これから事務局として最終的な構想のまとめをし、次回の審議会で提示できればと思っているので、よろしくお願いします。

### 3 その他

(会長)

委員から提案を作っていただいております、2点ある。お願いします。

(委員)

まず一点、伊予市民に協力を得る方策である。これは第2回か第3回の委員会でも提案をしたのだが、冊子をまとめる上でイラストや写真が挟み込まれると思う。ネットにある料金のかからないイラストや写真でまとめるという方法も確かにあるのだが、ここは市民の手作り感を出す意味でも、伊予市民が作った作品を入れてはどうかという提案である。提案には上三谷在住の方が書いた絵本やこの審議会委員の娘さんが書いたイラストも載せている。写真としても、花の写真とか花火の写真とか、フォトコンテストに選ばれた作品がいくつかあるのだが、こういったものを採用して冊子をまとめていけば良いのではないかと思う。ただフォトコンテストの場合は、伊予市以外の方の受賞が多いので、伊予市の方を優先して採用していただきたいと思う。

2点目の提案である。前回伊予市は人口減少に手を貸している、もしくは背中を押していくという発言をした。その根拠となる資料である。伊予市のホームページに入札結果というのが、過去3年間にわたり載っている。資料には平成24年度からの工事や委託、物品とあり、それぞれで発注しているようである。着色した部分が市外への企業へ発注した事業である。一部間違いがあるかもしれない。その合計額及び市内企業への発注金額の合計を最初のページにまとめている。

一番上の工事の表、平成24年度に市内企業へ発注したものが86.8%に対し、平成26年度は41%に減っている。委託では31%が8.7%、物品は43%が3.4%に減っている。平成26年度は大型事業が発注された関係で極端に伊予市企業への発注率が減っている数字になっているのだが、ひどい数字である。

平成24年度は市外企業へ10億円出ていった。平成25年度も10億円出ていった。平成26年度の47億円というのは大型公共事業が発注されている関係ではあるのだが、平均するとほぼ10億円のお金が毎年市外へ流出している。次に県内業者の受注率である。建設コンサルタント、地質コンサルタント及び測量業者への発注割合は、愛媛県の場合約50%が県内、50%が県外発注である。ところが伊予市の市内発注は8.7%である。次に世帯人口1人当たりの平均所得金額。

これは厚生労働省のホームページから引用している。世帯人員1人当たり平均所得金額が208.3万円である。毎年市外企業に流れている約10億円をこの所得金額で割り算すると、482.9人となる。つまり、伊予市が伊予市外の企業へ毎年10億円払っていることにより機会損失が行われているということである。

次に国立社会保障・人口問題研究所の数字である。2015年の36,334人が2040年に25,918人に減少する、毎年373.2人減という計算である。これが先ほどの482.9人とニアイコールと言えばニアイコールである。つまり伊予市の入札制度を変えない限り、人口減少は変わらないということである。言い方を変えると伊予市の入札制度を変えることによって、いくらかでも人口減少に歯止めをかけることができるのではないかというのが私の提案である。

(会長)

ありがとうございます。今2点ほど提案いただいたのだが、ご意見はないだろうか。

(委員)

拍手しようかと思うぐらい素晴らしいご意見である。さっきの人口の件については、これで数字が分かったので解決した。

最初の提案もすごく良いアイデアだと思う。上三谷の方も新聞やマスコミに取り上げられており、今回も取り上げていただいてうれしい。委員のお嬢さんのデザインも素晴らしい。こういうものが盛り込まれると、本当に市民の本になると思う。外注するアウトソーシングではなく、埋もれた伊予市の財産、人材は財産なので、そういう人たちをここに採用されると市民の総合計画になると思う。

一番大拍手したかったのは、次の提案である。私も一業者として言いたいことは山ほどある。大変感動した。

(委員)

素朴な意見であるのだが、仮に市が伊予市の建設業者の方に発注するとしたら、伊予市で受け入れる建設業者で能力を持つ方がかなりおられるのか。

(委員)

私は工事関係者ではないので分からない。

(委員)

分かった。それから全く関係ない話なのだが、一点確認したい。今度出る総合計画は3冊目で良いのだな、私はそう認識しているのだが。

(事務局)

実際には2回目、第2次になるのだが、改訂版が出ているので3冊目にな



る。

(委員)

なるほど、分かった。

(会長)

今の提案に対して事務局何かないか。

(事務局)

入札制度については、担当が財務課になるので、持ち帰って財務課に提言を伝える。

もう一点伊予市民に協力を得る方策について。今朝資料を頂いたときに総務企画課と相談した。来年度は1年かけて市制10周年の記念事業を行うこととなっており、この10周年記念事業にも織り込むことも検討している。是非実現させて、イラストや写真については、総合計画にも載せるよう進めていきたいと思う。貴重な提言ありがとうございます。

(委員)

公共工事ではたくさん言いたいことがある。この入札制度をもう一度再考する委員会を立ち上げて、いろんな立場の意見を寄せながらやった方が良いのではないか。財務課だけに任せても何も動かない。全体を見直す会を作ってはどうか。

(委員)

構わないか。給食センターの建設が当初20億円弱だったものが、全部で25億円近くになるようだ。まあいろいろなものが上がったのだろうと思うのだが、それはそれとして、給食に使う伊予市の自給について。もう豚から野菜から果物まで何でもあると思う。うわさでは、よその給食より地産率が低いと聞いている。お百姓さんや畜産業者は契約栽培なので、ものすごく野菜が高くなって買わないといけない。だけど、安定した収入を考えると一つお願いしたい。

(委員)

ついでのことなので言わせてもらいたい。

先日公共交通のバス会社が市外の業者に決まった。市内の業者は4社あり、相談する際は4社にさせておいて、ふたを開けると点数が良くて市外業者となった。その根拠が納得いかない。私に言わせたら官製談合である。点数というのはいい加減なもので、密室で決まるだろう。地元には道が悪い所もいっぱいある。そこを走らせていくのに、地元の方が顔が分かっている。いろんな意味で地元のバス会社にさせてあげるのが本当だと思う。先ほどの提案は正しいと思う。その入札制度の点数制をもう少し考えてもらえないだろうか。言われた

ように別委員会をやはり作るべきである。

新庁舎でも市外業者が取った。私も地元業者として一生懸命営業に行ったのだが、高いと言われた。業者には地元業者を優先的に使うように言っているはずなのに、伊予市の業者は大方入らない。私はスーパーゼネコンにでも納めさせてもらえる金額を持っていっても高いと。普通ではどう考えてもあり得ない。やはり市としては、入札制度もそうなのだが、真剣に伝えてほしい。

これもついでになるが、出した宿題も戻ってきていない。動けば変わるがどうなったのか。伝えますと言っても先に進まないのなら意味がない。だめならだめな理由を返してくれないといけない。投げかけている宿題は何だったか。

(事務局)

公民館のあり方である。教育委員会や人事の担当にも伝えている。

(委員)

いや伝えたとか伝えないとかもういい。伝えたら答えが返ってこないといけないだろう。市長は動けば変わると言った。打てば響かないといけないだろう。私もそう信じて一生懸命やっている。だから変わってほしい。100%できなくてもいいのだが、1つも動かないと皆さん何も変わらないなあということになってしまう。今言っているのは小さいことである。公民館主事が一緒に頑張ろうやと、区長さん助けてくれまいかと、協議員さんに応援してもらえまいかと言っても構わない。職員がまず動かないと区長も動けない。伝えたと言うだけでは放っているのと一緒にである。私が何度も言ったこと、みんなが言ったこと、答えを返してくれ。こういう理由だからできません、半年先、1年先にはできるとか、それくらいはできると思う。そうじゃないと、みんなが言ったことが何にもならない、貴重な時間がパーである。何かは戻ってくる形にしてくれ。ここに権限がなくても、言ってだめだと言っていましたとか、待ってくれと言っていましたとか。伝えましたではやらないのと一緒にである。官僚や公務員が言う善処しますと一緒にである。

(委員)

よろしいか。私も議員を10年やって職員と話をしたときに、議事録取っているのだろうと言うと、3分の2は取ってなかった。今提案があったことも記録されていると思うのだが、今まではそういう体質だったと感じている。

新市長が動けば変わるというキャッチフレーズでやっているのだが、職員にはそういう姿勢が見えないのが現実ではないかと感じている。今日を境に是非議事録もしっかり取ってもらいたい。私は先ほどの入札の件を聞いて自身情けないなと思った。入札業者もAクラスありBクラスあり、ここまでのものはこ

れだけの資本金とか差別されているのが現実である。特に建設の入札に関する書類は我々が見てもちんぷんかんぷんである。専門業者じゃなければ分からないようなびつさ、言語不明解、そういうものの言い方をされるのが現実である。そういう中で、本当に開かれた有志で、市民に目線を向けることができれば、そういうところも変わっていくと思う。総合計画審議会にもそういうものを入れていただいて、もっと開かれた審議会とし、明るい伊予市を作るために大いに役立ててほしいと思う。

(会長)

いろいろ提案なり意見をいただいた。この点について、事務局から後日答えを頂きたいと思う。

(委員)

素朴な意見である。建設は一切分からないのだが、今は委員さんが要するに市の悪口を言っている。そのときに、伊予市の市会議員はどういう対応をしてくれるのか。私はよそを見るたびにいつもそう思う。市民目線と市行政のパイプ役はどちらかと言えば議員である。この審議会の土木関係でいろいろ話を聞くのだが、それは以前からもうそんな仕組みはできているのではないかという意識がある。市会議員がそこに入り、どういう目線なら建設業者のプラスアルファになるか。いろんなやり方、手法はある。言葉は悪いけれど、上手に議員を使わないといけない。市の職員も厳しい取扱いではあるが、上手に接触し、根回しもしながら、突いたり引いたりしながらやらないと物事は成就しない、達成しない。過去の議会で質問されない議員もたくさんおられると聞いている。もっとしっかりした考え方でやってもらいたい。

(委員)

今言われたことで、私も一つだけショックを受けたことがある。土木関係の問題で職員に言うと、区長を通してくれと言われた。区長は地元の総代として出られており、市会議員はオール市民の付託を受けて動いている。優先順位付けるならどっちだと言うと、区長を通してくれという言い方であった。これが市の職員の目線である。私は余計に腹が立った。確かにちょっと傷んでいる道を直してくれと言うと、はいと言う。地元の金額が張るようになると区長を通す、それは違うだろうと。そういうところ、是非市会議員を上手に使ってほしい。

(事務局)

一点だけよろしいか。先ほどの給食の件である。伊予市で使っている米飯は平成24年度から100%伊予市産の米を使うようにしている。野菜はJ A えひめ中

央のおひさまいちと契約しており、そこに学校給食部会から必要なリストを送付している。出荷している伊予市産のものを優先的に使うようにして、賄えないものだけ地元の商店で買うという取り組みをしている。地産地消は今後も進めていくと食育推進会議でも決めている。

(委員)

おひさまいちは松山市だろう。

(事務局)

そうだ。以前 J A伊予に相談に行ったのだが、集荷と配荷の仕組みがなかった。伊予の農協あるいは地元の商店でできれば良かったのだが、まずは地元の農家が作った野菜を使える仕組みからということで始めている。この仕組みは地元の産直市でももしかしたらできることかもしれないので、今検討を進めている段階である。

(委員)

質問に答えてくれてありがとうございます。ただ数字である。言われることは私も分かる。にんじんやゴボウ、大根もあり、魚や肉もある。量的に多いのかどうか、金額的に伊予市産が何%占めていくのがいいか、私も確実な数値を持っているわけではないし、今は計画段階だろう。できる限りよその給食センターには負けないくらい追っかけてほしいということである。

(委員)

1点よろしいか。先ほどの提案の言い方を少し変えると、伊予市から伊予市外へお金を流出させると、200万円流出をさせると1人人口が減るという見方ができる。つまり2,000万円のお金を市外企業へ委託すると、10人人口が減るという計算になる。そういう人口減少の意識を持って発注なり仕事をしてほしいと思う。

(委員)

構わないか。2月23日にウェルピア伊予にて、少子化人口減少問題を考える市民集会を開き、大勢の方に来ていただいた。この審議会の皆さんにも多大な協力をいただきありがとうございました。

少子化問題について、先ほど待機児童が50人という話を聞いた。従来なかったはずではあるが、本日の愛媛新聞の1面に「保育士争奪、中予で過熱」ということで、伊予市は大幅に保育士さんいなくなったと。つまり特に中予地区で各自治体が子育て支援の競争をしているわけである。その中で大きく後手を踏んだと思うのだが、この失敗から行政も市民も危機感を持っていただき、どう挽回するかということをテーマに考えれば新たな切り口が出てくるのではない

かと思う。

合併の問題については、やはり今日の愛媛新聞3面、中山間地域の暮らしや農林業に平成の大合併がどう影響しているのか、適切な分析がなされている。以前前知事のインタビューが載っており、超優等生の発想だなとつくづく思った。本当は中央が縦割り行政の弊害をなくし、厳しくリストラするから地方も協力してくれということだったのに、予算は減らず、ずぶずぶの状態でも地方だけが厳しい財政を強いられた、単に周辺部が疲弊されて終わったというのが平成の合併の姿だったと思う。この状態で伊予市をどうするかと言うと、私は地域内分権を進めていくことが必要だと思う。合併協議会の協定書の中には、民間市役所的なものを作るという案も出ていたと思う。例えば中山地域、双海地域にNPO組織でもう一度自治を作り直すこともあると思う。その組織の中に事務職員的な人を雇用できる場、若者が研修できる雇用の場を作ることができれば、もう一度復活できる可能性はあると思う。そういう意味では、この平成の合併の教訓を糧に、もう一度伊予市を作り直すことを考えるいい機会だと思う。皆さんもその点お考えいただければと思う。

(会長)

その他事務局からお願いします。

(事務局)

1点目、前回の審議会の議事録を配布している。修正等があれば連絡いただきたい。

次に、前回の審議会のときに、市町村合併の検証の資料ができたことをお伝えした。本日愛媛県における平成の市町村合併の検証というものを配布している。細かい内容は省くのだが、今年度愛媛県と伊予市やその他市町が協力して行った。具体的には、住民アンケート、市長アンケート、副市長への聞き取りや各種団体への聞き取りということで、ここにおられる委員の数人にもご協力いただいた。2ページ目以降は合併の概要、70市町が20まで減ったとか、合併による財政効果の状況とかある。自治体を作っているのに、効果があつたという表現にはなっているのだが、実態と合っているか疑問なところはある。議員や職員、三役が減り、行財政基盤が強化されたとか、合併したことにより今まで使えなかった中山の体育館が使えるようになったという意味での広域的な利便性の向上があつたとか、今まで市町ごとに行っていた活動が一緒にできるようになったということでの住民コミュニティ活動の活性化など、合併の効果ということでもろもろ書いてある。当然効果があれば課題もある。実際は課題の方が大きいとは思っているのだが。例えば中心部は旧伊予市から住所も変わってい

ないし、役所の位置も変わっていないので、あまり変わっていないという意見が大半だったのに対し、中山、双海の団体や市民にお伺いすると、当然旧役場、地域事務所の職員も減っているし、さまざまな公共施設の利用も減っている、人口も減っているという一面もあり、課題は大きいという話をいただいている。周辺部と言うと、中山地区、双海地区、旧伊予についても南伊予地区、南山崎地区、北山崎地区とあるのだが、全ての地域が均衡ある発展を、ということで今度の総合計画の中にもまちからむらからということで生かしていければと思う。効果もあるけれど、実際課題がまだまだ大きいという検証結果になっている。

最後に次回の審議会の日程である。4月の第2金曜日、10日の午後1時30分から、さざなみ館にて開催する。案内文書は改めて送付するので、出席をよろしくお願いします。

(会長)

以上で今日の審議会を閉会とする。ありがとうございました。